「抱えない介護」実現

社会福祉法人福沢会（福岡県篠栗町）が運営する障害者支援施設篠栗園（同）は、定員50名の重度身体障害者を対象とした施設。全床、全トイレ、全浴室にリフトを導入しており、スタッフの業務負担軽減の成果として、ここ数年離職ゼロを達成している。運営について、福澤誠治施設長に話を聞いた。

篠栗園
福澤誠治
施設長

篠栗園について教えて下さい

福澤　1980年に重度身体障害者の療養と保護を目的とした「身体障害者療護施設」として開所しました。「生活するための施設」としての在り方を考え、2002年に建物を増築して、50床のうち半数の居室を個室化しました。その後、2010年に「障害者支援施設」へと形態移行し、2012年には耐震化のため旧館の建て替えを実施。完全個室化を達成して限りなく在宅に近い住環境の提供を目指しています。全居室で天井走行リフトを、また、トイレ、浴室にもリフトを導入し抱えない介護を実践しています。

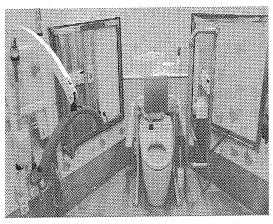
リフト導入のきっかけは

福澤　1990年代初頭、スタッフの確保が難しい時期がありました。人手不足のため、日中でも入居者にベッドで過ごしてもらう状況が続き、そのままでは良くないと思い、リフト導入を検討しました。また、入居者は数字や文字を認知出来ないだけではなく、身体に重度の障害をもつ人です。協力動作が見込めないということもあり、リフトは大変重宝しており、現在では全床、全トイレ、全浴室にリフトを導入しています。

抱える仕事を無くすことでスタッフはスカート介助可能に

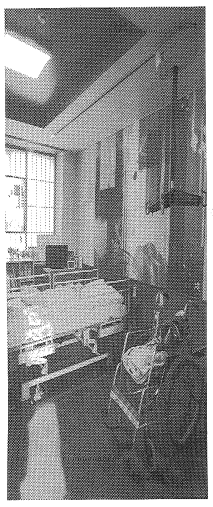
導入メリットは

福澤　「リフト」というと、時間がかかるというイメージがあると思いますが、業務効率から考えると2名揃うのを待つ方が時間はかかります。利用者は人の手で支えられるより、より広い面積で支えられるため安心して移乗できます。費用についても、人材募集を行ったり、雇用したりする人件費分はすぐに取り戻せます。リフトを使用することで、介助者に力は不要なので、人材確保にも効果があります。



トイレの流すボタンは両麻痺に対応するようオリジナルで制作

リフト導入で離職率ゼロ



全室に天井走行式リフト

具体的には

福澤　抱える仕事を徹底的になくせば、一般の服装で仕事できます。当法人スタッフはスカート姿でも業務を行っています。機械化によって、70代でも同じように業務することが可能です。人員配置は既定の3対1のまま、2対1を目指すことはしていません。増員した分の人件費を加算分でまかなえないからです。ほかの施設より10％以上スタッフ数が少ないものの、リフトが入っていることで業務は円滑にまわっています。機械化と少ない人員で運営している分、1人当たりの給与を高めに設定し、スタッフの給料をしっかりと保証しており、成果としてここ数年、離職ゼロを達成しています。

浴室にも2台のリフト

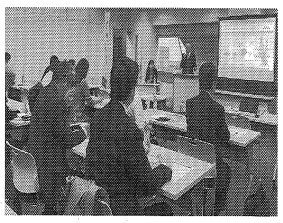
福澤　当法人では、リフトに取り付けるシート（スリング）を個別対応で選定しています。硬縮のかたちや、足、首が安定しないなど、対象者によってどのスリングが適切か選定し、フィッティングも丁寧に行っています。リフトの設置位置も、壁から90センチと規定しており、真っ直ぐベッドに下ろしてそのまま寝られるよう工夫しています。これはリフトの故障原因となる動きの回避や、部屋の環境が変わることで、スタッフの利用手順がわからないよう設計に配慮しています。

これからリフトを検討している法人になにかアドバイスはありますか

福澤　業務効率向上のためにもリフトは有効です。特に居室には、リモコンが有線で自動走行のものをお勧めします。当法人もさまざまなリフトを試してみましたが、リモコンは無線だと度々落とすことで壊してしまっていました。手動リフトは、横移動だけでも動くときに力が必要なため、介護者の腰に負担がかかります。また、利用者は振り子のように動くため、揺れが気になります。電動のものは、トロトロ動いて移動に時間がかかるように感じますが、利用者にとっては安全で確実な手段です。機械が動かないと仕事にならないというデメリットはありますが、定期メンテナンスや故障原因となるような使い方を回避する事でとても役に立つ商材です。

ペット共生型施設普及へ

リフォーム・リノベーションが鍵



勉強会の様子

一般社団法人犬と住まいる協会（東京都港区）は先月、勉強会「犬と住まいる専門部会」を開催し、ペットと住みやすい住まいづくりについて、参加者同士で情報交換を行った。高齢者施設においても、ペット共生型施設の普及が重要であるとした。

ペット産業の発展により、ペットとして飼われている犬の平均寿命は長くなり、人と同じく長寿化の傾向にあるという。また日本ではペットロスを経験している人が増え、ペットに関する知識も高まっているという。

このような状況で課題となるのが、ペットと住むための住宅の在り方。飼い主のペットに関する知識が高まっているため、住宅の設計から建築素材、内装など、様々な面で専門性が求められている。

野中英樹理事長は「ペット共生型住宅は不動産の価値を高めてくれます。一般住宅・高齢者施設ともに、今後は住宅のリフォームおよびリノベーションがキーワードとなるでしょう」と話した。

当日は会員の建材メーカーによる商品・サービスが紹介されたほか、ドッグリフォーム事例紹介が行われた。

同法人は犬の飼養管理や衛生管理などの知識が学べる認定資格「犬と住まいるコーディネーター」の取得者を65名輩出している。

日介連 来月、台湾でサミット

日本と台湾の介護産業について考え、両国の事業者マッチングを行う「第1回台日介護産業交流サミット」が2月22日～23日に台北で開催される。主催は一般社団法人日本介護事業連合会と一般社団法人台日産業技術合作促進会。

22日には日本の厚生労働省にあたる台湾政府が台湾の介護政策について、みずほ銀行台北支店が台湾の介護産業の機会と課題について解説する。そのほか「高齢者ビジネスの台湾・中国～今と今後の展望と課題～」（介護事業者対象）および「ヘルスケアREITファンド成長の方程式～既存施設買収型と開発型投資について」（投資企業対象）をテーマにしたシンポジウムも開催。さらには、日台介護事業者の商談会、「台湾における医療・介護施設投資ファンドの組成」に関するパネルディスカッション、懇親会も行われる。

23日には台湾介護事業者の施設見学や意見交流会が行われる。

移動経費および宿泊費用は自己負担だがサミットの参加費は無料。会場は台北101国際会議センター。

参加対象は介護事業者や投資会社、政府関係者、研究機関、学校など実際に現地事業者とのマッチングを希望・検討している事業者。各国から10事業者ほどの参加を見込んでいる。詳細は日本介護事業連合会まで。

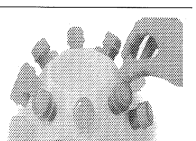
注目トピックス

キャップで脳トレ

Amazonで「指キタエール」発売

機能性健康靴の販売やリハビリ事業などを行うクルーズプランニング（福島県いわき市）は、キャップの開け閉めで指の力と脳を鍛えるトレーニング玩具「指キタエール」を発売した。Amazonで販売を行う。

指キタエールとは帽子のような形をした立体の土台に、カラフルな4色のペットボトルキャップが16個ついており、キャップを開け閉めすることで日常生活に必要な指の筋力を鍛えることができるもの。単純な動作のため、テレビを見ている時などテレビを見ている時などできることがメリットの1つだという。



価格は9000円（税込）

キャップを2個あけて同じ数字をあてる「神経衰弱」や、順番にキャップを開けて隠したスポンジを最初に見つけた人が勝ちとなる「宝探しゲーム」、すべてのキャップを閉め終わるまでの時間を競う「タイムアタック」など様々な遊び方ができる。

重量は約600グラムで価格は9000円（税込）。

ホームで「北海道フェア」

太平洋シルバー

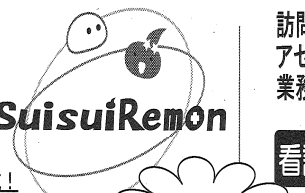
太平洋シルバーサービス（東京都武蔵野市）は同社が運営する介護付有料老人ホーム「シルバーシティ聖蹟桜ヶ丘」が今年開設30周年を迎えるにあたり、昨年11月に記念イベントを開催した。親会社の太平洋興発が北海道にゆかりがあることから、今回は「北海道フェア」を開催。ほかのホームでは定期的に開催してきたイベントだが、同ホームでは初めて。

当日はプロレスラーとして一世を風靡した小橋建太さんによる「プロレスエクササイズ」やジャガイモやタマネギといった北海道産食材の直販、鉄砲汁の試食会が行われ、入居者や家族、地域住民などで賑わった。

小橋建太さんによるエクササイズ

介護・看護事業所様の経営をセントワークスがサポートします

回収効率をUP!
（99.9%を実現）
介護経営サポートシステム
「SuisuiRemon」



豊富な経営分析資料が満載！
介護経営の荒波をスイスイ乗り切りましょう！

複数ある事業所も本部一括管理で思いのまま。
多岐に渡る施設費用の管理もこれひとつでスイスイ！
請求書・領収書の作成も簡単です。

訪問ルート作成支援や介護記録登録など
サービスに集中できる新機能が盛り沢山！
※介護予防・日常生活支援総合事業にも対応します！

訪問看護
アセスメント
業務支援システム

看護のアイちゃん

メリット1 アセスメントの標準化を支援！
名古屋大学 山内豊明教授監修
「セントケア・山内方式」完全搭載
メリット2 看護の質を保証！
メリット3 帳票連動により業務負担を軽減！
メリット4 お客様による
バージョンアップは不要！

実地指導も怖くない！
法定書式のない中で確かな安心をご提供します！
コンフォーム・パッケージ
業務書式 相談サービス 研修ツール 各種マニュアル

■お問い合わせ先
セントワークス株式会社
東京都中央区八丁堀2－9－1 RBM東八重洲ビル7F
TEL：03－5542－8097 FAX：03－5542－8137

2017年 トップあいさつ 年頭所感

若い人材の育成を

酒井亮
代表理事

一般社団法人日本ケアイノベーション協会

今年、介護業界は本格的な価値変容の年になると感じています。介護ロボットの導入促進や、AIの活用検討などにより、新しい価値を創造し始めるという事です。それに伴い、業界全体として、人材の確保はもちろんのこと、その育成に取り組んでいかなくてはなりません。若い人材が、業界の発展を目指し、介護が未来ある職域へと進むためにも、業界が一つとなり共通の課題として取り組んでいけるよう、本年も活動し続けてまいります。

介護研修を支援

片貝浩樹
社長

オーボックス

動画研修システム「マナビター」の提供を通じて、お客様の研修の効率化、コスト削減を実現しております。

日本の介護業界では、介護報酬改定に向けたコスト削減の実施、また、人材不足補てんに向けた従業員の離職防止や海外人材の受け入れ・育成が必要とされてきます。本年も、研修コストの削減、従業員離職防止、海外人材の育成を実現し、介護業界の支援を行ってまいります。

自立支援を機器でケアフォース

北村健太
社長

「高齢者に尊厳のある豊かな暮らしを」とこれまで幾度となく言われてきました。近年、自立支援を積極的に行う施設が増えてきたからか、より「個」を優先したものに発展を遂げているように感じています。そのためには、生き方や暮らし方にも「パーソナルフィッティング」が必要です。ADLに応じたケアサポート機器の選定をすることは、24時間途切れることのない連続したケアと、自立支援に繋がる快適な暮らしにつながるとなるでしょう。2017年もケアフォースがご紹介するベッド・リフト・浴室製品にご期待ください。

2017年 トップあいさつ 年頭所感

国際化への準備

柴崎利雄
社長

ネクサス

医療・介護を取り巻く環境はさらに厳しさを増し、我々のようなコンサルタント会社の真価も問われる時代となります。昨年は一般社団法人日中医療福祉交流会の設立に携わり、医療・介護に関する技術や情報の提供、日中の医療介護企業への支援など、その活動を後援しています。今年は外国人技能実習制度に介護分野が盛り込まれるなど、医療・介護の業界も一層のグローバル化が進むと思われます。今年も、社員一同誠意努力して参ります。

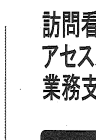
ペット全般支援

岡真由美
社長

PURENESS

少子化により、ペット数の方が多くなった日本。それにも関わらず、未だ高齢者とペットとの共生が難しい環境に置かれています。高齢者にとって、ペットは実子よりも身近な存在として、生きる力の糧だったり、癒やしになったりしている時代です。「そのような方々が安心して快適に住める終の棲家を作りたい！」それがペットライフコンシェルジュサービスの原点です。今後さらに増えるであろう、ペット共生ホームの需要を解決するサポートサービスとして今年もスタートして行きたいと思います。

マニュアル策定



宮内康二
代表

一般社団法人後見の杜

今年から後見のゴールドプランを各自治体が策定します。根拠法は昨年施行の「成年後見制度利用促進法」です。これにより多くのお客様に後見人が就くでしょうが、後見トラブルも増えるでしょう。当社では介護事業者向けの「後見対応マニュアル」を策定中です。内容は、介護と後見トラブルの事例・本人や家族と後見人の意見が異なる場合の対応・お客様が後見人に払う費用の査定・後見登記事項証明書の読み方など何でもご相談下さい。

月刊エルダリープレス シニアライフ版

シニアの快適生活を応援

高齢者住宅新聞の読者からの要望に応え、2014年8月にシニアの快適生活を応援する情報紙「エルダリープレス シニアライフ版」を発刊。有料老人ホームや高齢者住宅で暮らす入居者、在宅介護サービス利用者、さらには介護保険外サービスを展開する上で欠かせない元気高齢者向けに、生活、金融、相続、趣味、旅行に関連した様々な情報を発信しています。

こんな風に活用されています
- 入居者や利用者などに無料配布。付加価値サービス向上で他施設と差別化!
- 入居者（利用者）とスタッフ間のコミュニケーションツールに!
- 自社の広報紙として、社判を押して見込み客やケアマネへの訪問の切り口に!
- 法人・団体のブランディングに!

BtoBtoCのシニア向け情報紙

適切なケアで予防を

購入・買い取り料金：1部あたり50円（送料・税込）申込は50部から50部単位
購入・買い取り方法：施設運営会社や介護事業者、または高齢者やその家族を顧客とする事業者が一括購入。各運営施設や入居者・利用者に直接配布していただきます。
年間購読について：1部単位で年間購読をご希望の方は、年間購読料600円（50円×12カ月分）（送料・税込）

お問い合わせ・購読申込みは、お電話、ホームページ、FAX、メールにて受付けています。

（株）高齢者住宅新聞社 〒104-0061 東京都中央区銀座8-12-15
TEL.03-3543-6852 FAX.03-3543-6853
メール：info@elderly-press.com ホームページ http://www.eldlerly-press.com